

なかがわ

広報

2014. 1



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.100

- 新年あいさつ 2
- 年おとこ年おんなの今年の抱負 4
- 町・県民税（所得税）の申告はお早めに 6
- 木の駅プロジェクト実証試験がスタート 8
- 那珂川町第九を歌う会演奏会 9
- 平成26年度那珂川町臨時職員募集案内 18



那珂川の初日の出（若鮎大橋下流、午前7時10分）

わかあゆ保育園もちつき
「ぺったん、ぺったん！」

広報 Koho Gallery
展示室

第100回

青木コレクション展 —最後の浮世絵師 小林 清親—

重く暗い空の下、増上寺から出てきた女性。頭巾を被り右手に杖を、左手に傘を持っています。寺への入口までは雪が除けられ

ていますが、朱塗りの三門の屋根は雪で白くなり手前には積もった雪が舞い落ちる松の木が大きく描かれています。構図のみならず、画題も「武蔵百景之内 芝増上寺雪中」と歌川広重の「名所江戸百景」シリーズを連想させる作品ですが、作者は明治時代に活躍した浮世絵師、小林清親（1847～1915）です。

小林清親は幕末の江戸に旗本の子供として生まれました。父の死により15歳で家督を相続し、ほどなくして維新の動乱に巻き込まれます。鳥羽伏見の戦いに参加し、維新戦争終結後は旧幕臣とともに静岡に下るなど苦労を重ねました。しかしその一方で画技を学び、明治9年（1876）に浮世絵師としてデビューしました。光と影の表現が特徴的な「光線画」と呼ばれる風景画は小林清親の名を世に広く知らしめました。以後、新しい技術や画風を模索し、風景画のほかに美人画や歴史画、風刺画、肉筆なども手掛け、浮世絵が衰退していく時代でありながらその画業は多岐にわたります。青木藤作氏（1870～1946）が熱心に収集した小林清親の浮世絵は青木コレクションを代表する作品の一つとなっています。

本展では浮世絵界が衰亡するなかで活躍し、「最後の浮世絵師」と言われた小林清親の作品を当館所蔵のコレクションからご紹介いたします。

馬頭広重美術館 学芸員 塩野目育枝



小林清親「武蔵百景之内 芝増上寺雪中」

【会 期】

1月24日（金）～3月2日（日）

【ミュージアムトーク（展示解説）】

1月25日（土）午後1時30分～

【開館時間】

午前9時30分より午後5時まで（但し入館は4時30分まで）

【休館日】

月曜日、祝日の翌日

【入館料】 大 人 500円（450円）

高・大学生 300円（270円）

※（ ）は20名以上の団体料金。

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成24年度那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品



優秀賞 「雪の境内」

佐海 忠夫さん（真岡市）
撮影場所…乾徳寺

広重美術館で吉村和敏さんの写真展を見に行った帰りに、雪が降っていたので観光写真が撮れるだろうと思い、境内で人が来るのを待ちました。（佐海さん）



優秀賞 「早春の詩」

田代 洋子さん（塩谷町）
撮影場所…ふるさとの森公園

早春の穏やかな雰囲気をだすために、写生している人物を入れ、一つのポイントとして写しました。（田代さん）

